附中 NOW	第２４号（通巻第８０９号） 令和８年１０月３０日（金）	長崎大学教育学部附属中学校 発行者　校長　刈山　弘全

附中祭「秋」合唱フェスティバル

「共鳴」をテーマに、夏休み前から取り組んできた附中祭「秋」合唱フェスティバルが盛会のうちに終わりました。

「歌の力」が附中生を大きく成長させ、当日の感動を生み出しました。当日までの運営準備や合唱練習、「附中讃歌」の全体練習を重ねながら、この行事を通して、１年生は、先輩は憧れではなく、追いつきたい大きな存在として認識し始める機会となり、２年生は会場設営を任され、いよいよ附属中の舵取り役を担うことを実感したようです。また、３年生は卒業を意識するきっかけにもなりました。

審査員と全校生徒の投票により各学年のインプレッシブ賞とオーディエンス賞には、次の学級が選ばれました。

インプレッシブ賞：１－３、２－２、３－３

オーディエンス賞：１－４、２－４、３－４

美術部作

生徒会企画部作

実行委員長　赤澤想花さんの閉会式での挨拶

附中祭「秋」合唱フェスティバルは、皆さんにとってどのようなものになったでしょうか。どのクラスの演奏も一体感があり、とても洗練されていました。今年度の附中祭のテーマ「共鳴」とは、音となって周囲に広がった一人一人の「こえ」が、新たな行動を生み出すこと。７７代生徒会役員をはじめ多くの皆さんがこのテーマのもと、私たちを引っ張ってくれました。どうすればよりよくなるのか、話し合う姿。誰かが発してくれた「こえ」に応えようとする姿。合唱練習をとおして、互いに「共鳴」する姿を何度も見かけました。

１年生にとってはなにもかもが新しい経験で不安や緊張も大きかったはずです。しかし、それを感じさせないようなフレッシュで明るい演奏を聞かせてくれました。２年生は、男声の柔らかい歌声と、女声の明るい声で、力強さと成長を感じさせる見事な演奏でした。３年生は、附中祭「秋」初めての試みとなる学年曲「河口」を披露してくれました。３年生には、場を明るくし、お互いに切磋琢磨できるという強みがあります。その良さを存分に活かした、温かく、力強い演奏だったと思います。

これまでとは違う新たな形で、私たちは附中祭の歴史を歩んできました。どのクラスもひたむきに合唱に向き合い、歌を通して絆が深まりました。互いに成長し合えたと思います。そしてなにより、このメンバーで歌えたことは一生忘れられない思い出となり、これからの私たちを支える力となるはずです。

今回の附中祭「秋」を運営するにあたり、ご指導してくださった先生方、応援してくれた保護者の方々、ご来場の皆様、本当にありがとうございました。これまで高め合ってきた道のり、そして今日の歌声を、明日からの学校生活の糧にして、頑張っていきましょう。

附属中の合唱は、互いを認め合う温かい集団だからこそ生まれる力強く美しい響きがあります。これは附中が誇る伝統の一つです。附中祭「秋」で深まった学級・学年の絆が、今後の学校生活の中で一層固く結ばれ、百日祭、卒業式へと思いを繋いでほしいと思います。